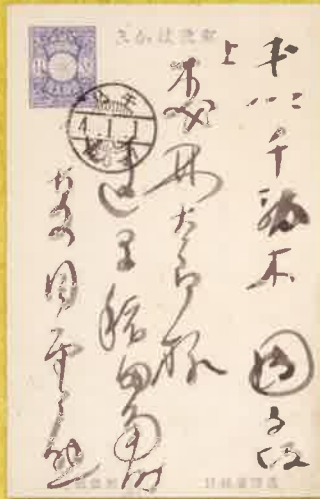
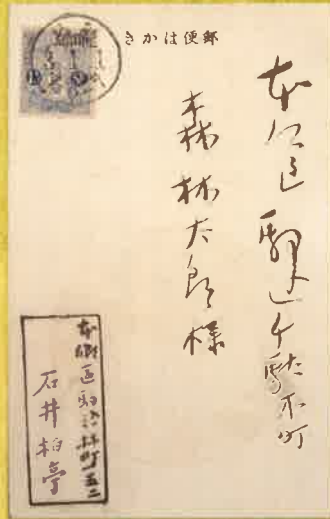


目次

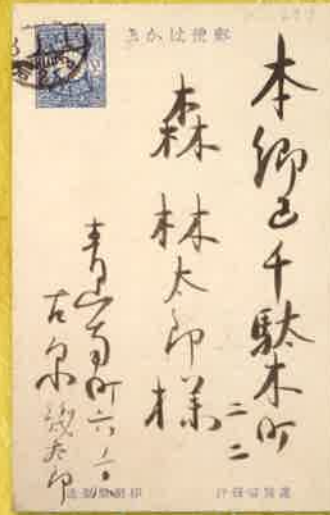
巻頭コラム「鷗外の「別離」と「ゼッキンゲン」のトランプト吹き」瀧井敬子(元東京藝術大学特任教授)／展示報告／活動報告／展示のお知らせ コレクション展「拝啓、森鷗外様——鷗外に届いた手紙」／コレクション展「拝啓、森鷗外様——鷗外に届いた手紙」によせて「手紙を読む楽しさ」山崎一穎(森鷗外記念会顧問)／展示会場から／特集「千葉県いすみ市日在「鷗荘」跡訪問記」右佐春奈(文京区立森鷗外記念館 司書)／ショップ便り／カフェ便り／これからの催しもの／編集後記



夏目漱石年賀状 大正4年



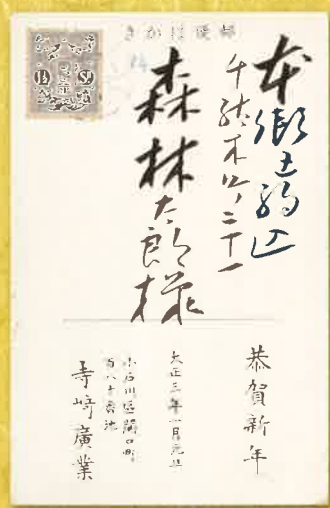
石井柏亭年賀状 大正3年



古泉千穂年賀状 大正8年



井上通泰筆葉書 明治24年3月9日消印



寺崎廣業年賀状 大正3年



伊豆凡夫年賀状 大正3年



浅倉屋久兵衛筆葉書 大正6年5月2日消印



小山内蘆筆葉書 明治39年9月19日付



生田英山筆葉書 大正3年4月14日付

鷗外の「別離」と『ゼツキンゲンのトランペット吹き』

瀧井敬子 (元東京藝術大学特任教授)

東京大学総合図書館の「鷗外文庫」のなかには、ヨーゼフ・ヴィクトル・シェップフェル(一八二六—一八八六)による長編詩『ゼツキンゲンのトランペット吹き』の単行本もある。赤い表紙に、金文字で作者名と書名が彫り込まれている。装丁がたいへん美しい本である。一八八四年発行の百二十二版。

一八八四年と言くと、鷗外がドイツ留学で初めて居を定めた年である。日記によると、十月三日、ライプツィヒの「東北隅タアル街」に下宿を決め、翌四日には、「夜は独逸詩人の集を渉猟すること、定めぬ」とある。軍医としての本業の余暇には、ドイツ文学の読書に励もうと決意したというのである。

シェップフェルはカールスルーエに生まれ、ハイデルベルク大学などで法学を学び、博士号を取得、司法官候補としてゼツキンゲンに赴任した。ライン河を隔てて、スイスに接する国境沿いの温泉町で、シェップフェルは、ゼツキンゲンのシェーナウ城主の令嬢と、庶民のヴェルナー・キルヒホーフアーとの恋物語の存在を知った。それは実話であった。そこで、想像力を羽ばたかせて、ロマンチックな長編詩を作った。処女作であったが、一八五四年に出版されると、たちまち評判を

呼び、初版から二年を経た一八七六年には五〇刷、その六年後の一八八二年には一〇〇刷、当時としては記録的なスピードで版を重ねた。ドイツ帝国の宰相ビスマルク(一八一五—一八九八)もファンの一人だった。

一八八四年になって、この人気長編詩が初めてオペラ化された。ライプツィヒ市立劇場の指揮者を長年つとめていたヴィクトル・ネッスラー(一八四一—一八九〇)が、この職を辞めて作曲に情熱を燃やしたのである。序幕つき三幕構成によるオペラ『ゼツキンゲンのトランペット吹き』は、同年五月四日、後任の若手指揮者によって初演された。大成功で市の財政を潤すほどの大ヒットとなった。その若手指揮者とは、のちにライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団とベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者となり、亡くなるまで両楽団を率いて名声をほしままにした、あの伝説の指揮者、アルトゥール・ニキシュ(一八五五—一九二二)のことである。

鷗外のライプツィヒ滞在中(およそ一年間)このオペラは再演に次ぐ再演で、やがてドイツ国内の他の諸都市へ、さらにヨーロッパの諸都市へと広まっていった。

ネッスラーからオペラ用の台本を依頼された友人のルードルフ・ブンゲ(一八三六—一九〇七)は、原作の筋書きをわかりやすく、かつ短くした。それだけでなく喇叭手ヴェルナー・キルヒホーフアーとシェーナウ城主の令嬢の恋の喜びと悲しみが観客の心に突き刺さるように、アリアと重唱を効果的に配置した。しかもその歌詞には、シェップフェルのオリジナルの詩句を転用した。原作者から法的に正式な許可を得て、敢えて使用したのである。

一八八八年(明治二二)九月八日、森鷗外は足かけ五年におよぶドイツ留学から帰国した。翌年の八月二日、鷗外は、落合直文や妹の小金井喜美子を含む五人で作った文学サークル



訳詩集『於母影』(「国民之友」第58号付録) 明治22年8月

展示報告

特別展

「森家の歳時記」——鷗外と子どもたちが綴った時々の暮らし」

会期：2020年8月8日(土)～11月29日(日)



導入展示室 観潮楼の本展オリジナルイラストを掲げ、森家に入っていくイメージを作った

鷗外が家族と暮らした観潮楼(現・当館)は、戦前に焼失し当時の面影は残っていません。しかし、鷗外が書き残した日記や書簡(記録)と、子どもたちが書き残した随筆(記憶)から、観潮楼での森家の「時々の暮らし」が浮かび上がってきます。本展では、鷗外の記録と子どもたちの記憶をつなぎ合わせ、森家、鷗外、そして鷗外作品の一年間や季節を巡ってみました。

第一章「森家の年中行事」では、子どもたちの記憶をたよりに、鷗外と家族が親しんだ年中行事(正月、雛祭り、花見、川開き、避暑、菊人形、七五三、クリスマス)を選び、当時の風俗資料や写真などを織り交ぜながら展覧しました。年中行事を楽しむ森家の様子は、子どもたちの随筆から該当箇所を抜粋して紹介しました。いずれも100年以上前の家族の風景ですが、私たちの郷愁を誘い、時に深く共感することができました。

第二章「大正二年の鷗外」では、当館所蔵の大正二年の鷗外日記(香奴旧蔵)から、鷗外の一年間を辿ることを試みました。陸軍軍医総監として多忙な上、臨時宮内省御用掛を命ぜられ、文業においては戯曲が次々と上演、徐々に歴史小説の執筆に力を注ぐ様子を、日記から12日分を選んで関連資料と共に紹介しました。この忙しい中でも雛祭りや七五三、クリスマスなどの年中行事は家族と過ごしています。鷗外の超人的な働きと活躍ぶりを再確認することができました。

第三章「鷗外作品に見る春夏秋冬」では、鷗外作品の中に登場する季節表現に着目しました。季節は草木の様子や年中行事などで表され、それによって作品の世界観が定義付けられたり、物語が動き出すきっかけにもなっています。例えば、命が芽吹く春は私たちが気持ち新たにしようという心持がしますが、『山椒大夫』や『高瀬舟』のように登場人物の決断や出発が、春の表現によってより一層際立っているように感じました。鷗外が示した季節に導かれて、私

撮影：コウ写真工房



第一章 子どもたちの資料(日記、奇書、雛人形、原稿等)も並んだ



第二章 資料と共に大正二年の日記を抄録したパネルを展示



第三章 作中に書かれた季節表現はスライドショーで紹介

活動報告

イベント再開!

「奥田佳道のクラシック音楽を一緒に！」
音楽と親しむ5回シリーズ終了



9月12日から隔週土曜日に、音楽評論家としてテレビやラジオで活躍中の奥田佳道氏によるクラシック音楽講座が開催されました。今年も、新型コロナウイルス感染症拡大防止で、世界中のオペラハウスが上演中止を余儀なくされましたが、音楽ファン憧れのモーツァルトの名作オペラ『フィガロの結婚』『魔笛』などの魅力をお話しいただきました。

また今年も、ベートーヴェン生誕250周年を寿ぐアニバーサリー・イヤーでもあり、第九を聞きながらゆく年を思うひとときとなりました。

「新声社」のイニシャル「S.S.S」(Shin-seishaの略)の署名で、訳詩集『於母影』を発表した(「国民之友」第58号の綴込み夏季付録)。

『於母影』のなかの「笛の音」は、全二六章から成るシェップフェル作『ゼツキンゲンのトランペット吹き』の第四章「小さな歌集」から鷗外が詩節を選び、落合直文が日本的な感性の詩に翻案したものである。「笛の音」の「少年の巻」の「少年」とは、喇叭手ヴェルナーのこと。「姫の巻」の「姫」とは男爵令嬢のこと。

「別離」は鷗外の作。これは、小さな歌集のなかの「若きヴェルナーの歌」の第二詩節を漢文体で翻訳したものである。「若きヴェルナーの別離の歌」は、オペラ『ゼツキンゲンのトランペット吹き』のなかで、最も感涙を誘うアリアである。恋への憧れの気持ちを抱きつつ、愛する女性を探し求めて放浪の旅を続けているヴェルナーが、ついに理想の女性に出会い、ひと目で相思相愛となる。しかし、男爵から結婚を反対され、別れを余儀なくされて彼は城を去る。この甘く切ないアリアには、オペラにだけ付けられたものであった。

このように辿っていると、鷗外はオペラ『ゼツキンゲンのトランペット吹き』を観たのではないかと、思いたくなる。

瀧井敬子
たきい・けいこ

1946年生まれ。専門分野は草創期の日本近代洋楽史。著書：『夏目漱石とクラシック音楽』(毎日新聞出版)『漱石が聴いたベートーベン』(中公新書)。編著：『森鷗外訳オペラ『オルフェウス』』(紀伊國屋書店)『ゼツキンゲンのトランペット吹き』(紀伊國屋書店)、共編著『幸田延の滞欧日記』(東京芸術大学出版会)、翻訳書『謎のヴァイオリン』(新潮社)ほか多数。第7回「JASRAC音楽文化賞」受賞。

展示のお知らせ

コレクション展

拝啓、森鷗外様——鷗外に届いた手紙

「パート1」年賀状を楽しむ 「パート2」文学者のたよりを読む

文京区立森鷗外記念館は、森鷗外(本名・林太郎)に届いた九〇通あまりの封書や葉書を所蔵しています。この中から選りすぐりの手紙を2期に分けて展覧します。

パート1では、差出人が自らデザインし趣向を凝らしたものの、新年の慶びをうたった詩歌が書かれたもの、賀詞が力強く墨書されたものなど、さまざまな年賀状を紹介いたします。川上眉山(小説家)、正岡子規(俳人)、寺崎廣業(日本画家)、谷崎潤一郎(小説家)ら四〇人の個性的な年賀状をお楽しみ下さい。

パート2では、文学者が鷗外に届けた手紙を読んでみましょう。執筆を依頼する尾崎紅葉(小説家)の封書や、執筆作品の訂正を伝える井上通泰(歌人)の葉書などからは、執筆者、編集者としての鷗外の姿が見えてきます。また、小山内薫(演出家)、上田敏(英文学者)、斎藤茂吉(歌人)の手紙は、写真や絵が印刷された絵葉書を用いて、文面以上のメッセージを伝えていきます。

鷗外の生きた明治・大正期、手紙は用件を伝えるための主要な手段でした。鷗外に届いた手紙を、記念館から皆さまにお届けします。鷗外の友人や知人が手紙に託した言葉を味わってみませんか。

【パート1】

上左 正岡子規年賀状 明治34年
上右 小山内薫年賀状 明治39年
下左 寺崎廣業年賀状 大正3年
下右 川上眉山年賀状 明治25年



会期 ● 2020年12月4日(金)

—— 2021年3月28日(日)

【パート1】2020年12月4日(金)

2021年1月24日(日)

【パート2】2021年1月27日(水)~3月28日(日)

【会期中の休館日】

12月22日(火)、12月29日(火)~1月3日(日)、

1月25日(月)、1月26日(火)、2月24日(水)、

2月25日(木)、3月23日(火)

会場 ● 文京区立森鷗外記念館 展示室2

開館時間 ● 10時~18時(最終入館は閉館30分前)

※ 2月14日(日)は20時まで開館

観覧料 ● 一般300円(20名以上の団体:240円)

※ 中学生以下無料、障害者手帳ご提示の方と介護者1名まで無料

※ 文京区と歴史館入館券、パンフレット(押印入)、友の会会員証ご提示で2割引き

※ その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

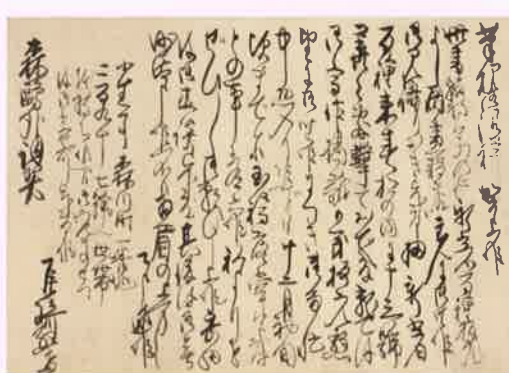
● 本展覧会の最新情報は記念館HP等でご確認ください。



【パート2】
生田英山筆鷗外宛 大正3年4月14日付
鷗外の小説『たかたの記』の舞台から届いた絵葉書。



【パート2】
伊井登峰筆鷗外宛 明治38年3月25日消印
役に扮する俳優・伊井の絵葉書。



関連事業のお知らせ

展覧会期間中に関連講演会を予定しております。申込方法は8頁をご覧ください。

「鷗外宛書簡から広がる世界」

併人・鶴澤芳松の一枚の葉書から」

講師 酒井敏氏(中央大学教授)
日時 2021年2月28日(日) 14時~15時30分
会場 文京区立森鷗外記念館 2階講座室
定員 30名(参加費と本展の観覧券半券が必要)
申込締切 2021年2月12日(金) 必着

展示解説

当館2階講座室にて当館学芸員が展示解説を行います。

2020年12月19日、2021年2月6日
いずれも土曜日14時(30分程度)、先着15名
申込不要、当日の展示観覧券が必要です。
直接講座室へお越しください(開場13時30分)。

同時開催

コレクション展開催中に、左記コーナー展示を開催します(展示室1)。展示観覧券で、コレクション展と共にご覧いただけます。

文の京ゆかりの文化人顕彰事業「コーナー展示
「鷗外と児童文学者・巖谷小波」

2020年に生誕150年をむかえた、巖谷小波と鷗外の交流を書籍を中心に展覧します。
展示期間:2020年12月4日(金)
2021年3月28日(日)の開館日

鷗外誕生日記念行事

鷗外159回目の誕生日を記念して、2021年1月19日(火)は、無料で展覧会をご覧ください。

コレクション展

「拝啓、森鷗外様——鷗外に届いた手紙」によせて

手紙を読む楽しさ

山崎一穎(森鷗外記念館顧問、本展監修者)

手紙は発信者から受信者へ、受信者から発信者へという双方方向性を持つ対話である。ここに関係性が成立し、共鳴関係が生まれる。今日のコミュニケーションの一手段である。

絵葉書や自作の絵・版画・デザイン・写真等広範囲の世界を形づく、墨筆・万年筆・鉛筆等表現手段の方法は多様性に富んでいる。表現内容を主眼としつつ、表現方法を含めて鷗外の交流や作品の舞台裏など覗き見、相方の肉声を聞き取ることも手紙を読む楽しみである。

パート1の正岡子規の賀状(明34・1)の画に注目したい。雁が手紙を銜えて日本列島へ飛来して来る画である。〈雁書〉といって手紙の謂である。子規のにくい工夫である。

寺崎廣業の賀状(天3・1)は鳥居と杉が画かれている。廣業は、勅題社頭杉(廣業)と記している。この年の歌会始の勅題「社頭杉」に因んでいる。落款は「騰龍軒」である。廣業の号である。

子規と言えば、森鷗外記念館編『鷗外をめぐる百枚の葉書』(1992年、文京区教育委員会)に斎藤茂吉の絵葉書(大5・1)が収録されている。絵葉書は子規画の大津絵で、子規自筆の解説が墨筆で記されている。この小さな絵葉書で、茂吉・鷗外・子規という大きな世界が堪能できる。

同じく荷風の鷗外宛絵葉書(明41・11)は、「さまよえるオランダ人の絵葉書を用いて、「帰国以後はオペラも音楽もなく夜は暗い」と記している。鷗外はどう対応したか、興味が湧く。

パート2の浅倉屋九兵衛から鷗外宛復葉書の返信(大6・5)は、鷗外が「伊澤蘭軒」(その三百六十二)で記していること、関藤藤陰が伊澤蘭軒へ贈った『東京繁昌記』初編、二編の書誌に関して鷗外が浅倉屋に問い、その回答を得た葉書である。

鷗外の史伝が鷗外自らの調査のほか、知友や未知の人の情報から成立したことの証左の一端で興味深い。情報のネットワークとして注目しておく。とにかく面白い。楽しんでほしい。

展示会場から

巖谷小波筆鷗外宛書簡

明治23年(推定)12月20日付 [4050231]

巖谷小波が児童文学者として世に出るきっかけとなったのは、明治24年1月に発表した創作童話「こがね丸」(『少年文学』第一編、博文館刊)です。尾崎紅葉率いる硯友社の一員だった小波は、新聞や雑誌に「湊山人」の名で小説、評論などを寄稿する若手作家でした。時に鷗外主宰雑誌「しからみ草紙」を痛烈に批判することさえありました。

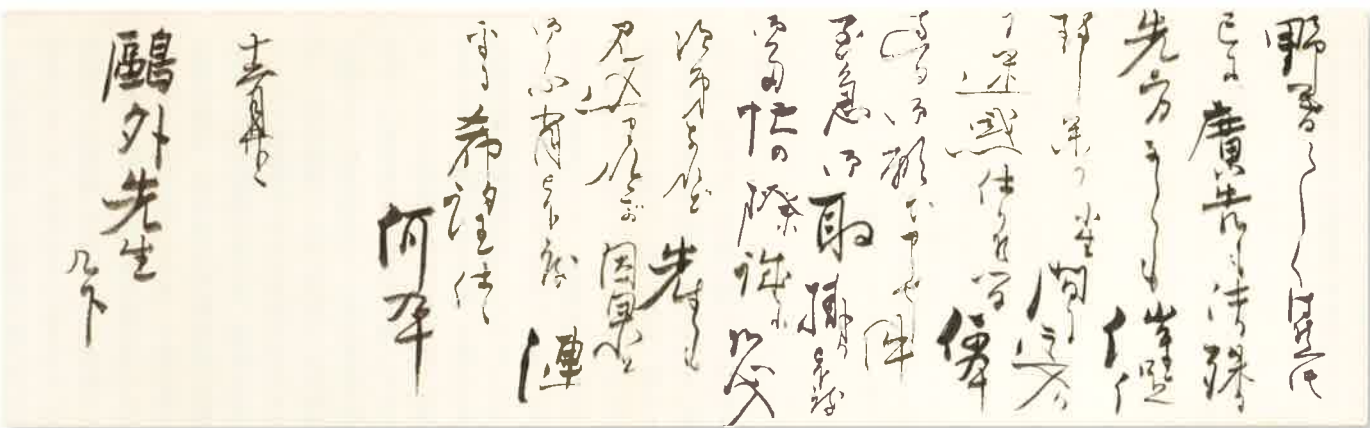
『こがね丸』刊行を翌月に控えた明治23年12月7日、午後7時、小波「庚寅日記」(明治23年)による。小波は文壇をけん引する存在であった鷗外に「こがね丸」の序文を依頼するため、鷗外宅を訪ねました。小波と面会して序文の依頼を受けた鷗外は、このように応えたといわれています。

「ハハア君が、湊山人かい!随分乃公に悪まれ口も利いたが……会って見ると憎くもないねエ。宜しい、少年文学は面白いから、序文は私が書いてあげよう。」(巖谷小波「初対面の鷗外氏」)

鷗外は序文執筆を快諾しましたが、原稿が遅れてしまったようです。この書簡は、しびれを切らした小波が鷗外に宛てた督促とみられます。「先方」(出版社か)から催促があり、「小生間に這入りて迷惑仕り候」と率直に状況を伝え、至急執筆に取り掛かるよう、「湊平に希望仕候」と鷗外に訴えました。

督促から約2週間後の明治24年1月3日、「こがね丸」は刊行されました。序文の中で鷗外は、児童文学が「子々孫々までも巻をかさねて栄へよかし」と記し、日本ではまだ確立されていなかったこの分野が、長く発展していくことを願いました。まさに「こがね丸」は、現代まで続く日本における児童文学の原点として、文学史にその名を刻んでいます。

この資料は、コーナー展示「鷗外と児童文学者・巖谷小波」の中で、12月4日から2021年1月24日まで展示します。



千葉県いすみ市日在「鷗莊」跡訪問記

岩佐春奈（文京区立森鷗外記念館 司書）

2020年6月30日、鷗外の三男・類の長男・森哲太郎氏にお招き頂き、鷗外の別荘「鷗莊」跡地を訪ねました。鷗莊は鷗外逝去後、この地を最も気に入っていた類の所有となり、建物は渋谷に移築された後に手放しますが、日在の地は昭和47年から類一家の避暑地として使われ、平成元年に現在も残る2階家が建ちました。日本経済新聞の取材記者も同行し、総勢5名は哲太郎氏のご案内で鷗外や家族ゆかりの場所を巡りました。

まずは、鷗外の母・峰子の日記にしばしば登場する景勝地・八幡岬に向かいました。小浜八幡神社の鳥居をくぐり、急な階段を上っていきます。右手にこぢんまりとした砂浜（丹ヶ浦）を見ながらなおも上ると、左手眼下に大原漁港（明治末〜昭和初期は海水浴場、昭和17年頃築港）、遠く太東崎が見えます。二つの岬の中ほどが目指す日在です。



八幡岬から大原漁港を望む

次に、現在の大原海水浴場近くの「森鷗外文学碑『妄想』より」（平成17年11月建立）を訪れました。鷗外の小説『妄想』の冒頭、「白髪的主人」は鷗莊と思われ、小家に座り、「夷灘川」向こうの太平洋を見つめます。その一節を刻んだ黒い石碑です。そしてすぐそばには文学碑「林美美子放浪記より」（平成11年3月建立）が建っていました。



森鷗外文学碑『妄想』

さらに、森家の人々が最寄り駅としていた三門駅から鷗莊までの道を歩きました。類が（前略）近在の富豪大野某の濠をめぐらした白壁の土塀にそって行くところが一番暑く、別荘までが遠い気がした」（鷗外の子供たち）と書いた白壁の土塀は今も延々と続き、その気持ちを実感できます。『妄想』に書かれた別荘前の松林は松枯れにより消失し、その先は太平洋が広がっていました。鷗外存命時は鷗莊の前を夷灘川が流れ海に注いでいましたが、現在は北の方から直接海に流れ込んでいるため、鷗莊跡地の前は瀉湖になっています。昭和になってかけられた橋を渡って、海岸に出ました。一帯は現在、「南房総国定公園」となっていますが、



白壁の土塀

昔は地引き網が盛んに行われていたそうです。当日は風が強く曇った日で、砂浜にはいませんでした。



類旧宅



井戸

常に潮騒が聞こえる家の2階の奥が類の書斎です。机、本棚がそのまま残り、部屋の窓からは瀉湖、その奥に太平洋が見えます。類が寝室にした部屋には天窓があり屋根裏のようなつくりでした。2階の廊下には類の義父・安宅安五郎（洋画家）の絵画、玄関には類の絵画が飾られ、現在も家族にとって大切な家であることがうかがえます。1階の居間に入ると窓から入る海風が心地よく、哲太郎氏はここを訪れると窓辺からいつまでも海を眺めると仰っていました。2019年の台風の影響は思ったより少なかったとのことですが、1階のテラスが被害を受け修繕を待っているそうです。

哲太郎氏によれば、類はいつまでも色々なことを覚えていて、「お前は忘れられて良いな」と言っていたといいます。類は日在の地を最期まで守り通し、大好きな父・鷗外とのかけがえの無い夏の思い出を時折思い出しながら、晩年をこの地で過ごしたのかもしれない。

*1 玉利伸吾「文学周遊717 森鷗外『妄想』千葉・いすみ市日在 死を怖れず、死にあこがれずに」（『日本経済新聞』2020年7月11日夕刊8面）の取材の一環としてこの訪問が実現しました。
*2 夷灘川のこと。夷灘郡は、古くは夷灘郡と記されることがありました。

参考文献

森類「鷗外の子供たちあとに残されたものの記録」光文社 昭和31年12月、森哲太郎「姉迎談話 祖父の観潮楼跡」（鷗外 93号 森鷗外記念会平成25年7月）、山崎國紀編「森鷗外・母の日記」三一書房 平成10年4月増補版、森鷗外『妄想』（鷗外全集 8巻 岩波書店 昭和47年6月）、大原町史「通史編」大原町 平成5年3月、『千葉県夷灘郡誌』夷灘郡役所 大正13年2月



ショッピング便り

当館では特別展図録だけでなく、館蔵の鷗外宛書簡を紹介する書籍や、コレクション限定のミニ冊子なども刊行しています。これらは当館ミュージアムショップのほか、通信販売でもご購入いただけます。どうぞ、お気軽にお問い合わせください。

◆鷗外宛書簡集シリーズ

鷗外宛書簡の多くは『鷗外全集（全38巻）』（岩波書店、昭和61〜平成2年）に収録されていますが、鷗外宛書簡については研究論文や展覧会図録に掲載された一部を除き、あまり知られていません。文京区立森鷗外記念館では、所蔵する鷗外宛書簡を翻刻・紹介する書籍を発行しています。

●『日本からの手紙』

文京区立森鷗外記念館所蔵
滞独時代森鷗外宛1884—1886
編集・発行：文京区立森鷗外記念館
調査・執筆：森鷗外記念会

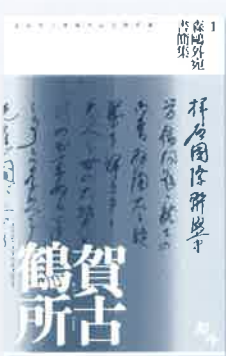


A5判／340頁
2018年11月発行／12,222円(税込)

明治17年8月からドイツ留学した鷗外が、同19年6月までの間に滞在先で受け取った書簡151通の翻刻を収録。『日本からの手紙』日本近代文学館所蔵滞独時代森鷗外宛1886—1888』（公益財団法人日本近代文学館、1983年）と併せて読むことで、留学中の鷗外宛書簡の全貌が明らかに。

●『文京区立森鷗外記念館所蔵 森鷗外宛書簡集1 賀古鶴所』

編集・発行：文京区立森鷗外記念館
監修：宗像和重
序文：山崎一類
（敬称略）

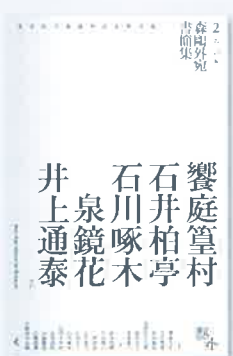


A5変形判／144頁
2017年1月発行／2,547円(税込)

鷗外の終生の親友である賀古鶴所が鷗外に宛てた書簡111通を中心に、当館所蔵の賀古関連書簡全127通の翻刻を収録。

●『文京区立森鷗外記念館所蔵 森鷗外宛書簡集2 へあーい』

編集・発行：文京区立森鷗外記念館
監修：須田喜代次
調査・執筆：小川康子、松木博、山口徹
（五十音順、敬称略）



A5変形判／168頁
2019年7月発行／3,850円(税込)

苗字の頭文字が「へあーい」の差出人33名の人名注と鷗外宛書簡141通の翻刻を収録。監修チームによる、翻刻調査からみえてきた新しい事項についての「解説」も掲載。

●『文京区立森鷗外記念館所蔵 森鷗外宛書簡集3 へうーお』

2021年1月刊行予定！

◆ミニ展示ガイドシリーズ

2017年度以降、コレクション限定で展示解説、資料キャプション、関連年譜などの資料集を収録したミニ展示ガイドを発行しています（購入可能なもののみを掲載しています）。

●『森家三兄弟—鷗外と二人の弟』



B5判／12頁
2017年7月発行
220円(税込)
三兄弟（鷗外、篤次郎、潤三郎）年譜収録。

観潮楼を訪れた美術家たち

●『鷗外ミーツアーティスト』



B5判／12頁
2018年1月発行
220円(税込)
鷗外と美術を紹介する関連年譜と用語集を収録。

少しも退屈と云ことを知らず 鷗外、小倉に暮らす



B5判／16頁
2019年1月発行
280円(税込)
『鷗外全集』未収録の「小倉日記附録」一部図版を掲載。

父と母 鷗外のファミリー・ヒストリー



B5判／16頁
2020年1月発行
320円(税込)
付録「展示関連人物相関図」。

拝啓、森鷗外様 鷗外に届いた手紙 パート1 年賀状を楽しむ



B5判／12頁
2020年12月発行
300円(税込)
図解「関連人物一覧」収録。



カフェ便り

10月から12月にかけて文京区のイベント「食めぐりレストランラリー」に参加しました。文京区と交流のある都市の食材を使用したメニューを提供し、交流都市を応援する企画です。モリキネカフェは、森鷗外生誕の地である島根県津和野町の食材を使用し、メニューを展開しました。青野山がそびえ高津川が流れる津和野町は、その地を生かした食材が豊富にとれる土地です。今回は里芋や栗、ゆず、お茶などの特産物をモリキネプレートやシチュウワフエといったおなじみのメニューに活かしました。



赤ワイン600円、白ワイン650円

12月4日にはドイツワインの販売を始めました。赤ワインと白ワインをご用意しています。白ワインはワイン好きな観光客も多く訪れるドイツ、フランケン地域にある醸造所で造られた親しみやすいワイン。赤ワインは2019年のベルリン国際映画祭で公式ワインに採用されたという興味深いワインです。どちらも気軽に楽しみたいだけ。モリキネプレートや季節限定のシチュレンと一緒にドイツ気分を味わってみてください。

これからの催しもの

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせください。

★応募多数の場合抽選とさせていただきます。
★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

1月19日(火) 10:00～17:30(最終入館)

鷗外誕生日記念イベント **無料観覧日**◎

1月19日は森鷗外の159回目の誕生日です。誕生日を記念して無料で展覧会を観覧いただけます。

1月23日(土) 11:00～17:00

文の京ワークショップ **「未来の自分への手紙」**◎
ふみの日イベント

会場: エントランス 料金: 無料

今の気持ちやこれからの目標など、未来の自分へ手紙を書いてみませんか。

2月23日(火・祝)～3月21日(日) 10:00～18:00

文の京ワークショップ **「手紙にまつわるブックフェア」**◎
ふみの日イベント

会場: ミュージアムショップ

「手紙」にまつわる書籍を集めたブックフェアです。

2月28日(日) 14:00～15:30

展示関連講演会

**「鷗外宛書簡から広がる世界
—俳人・鶴澤芳松の一枚の葉書から—**

講師: 酒井敏氏(中京大学教授) 会場: 講座室

料金: 無料 ※要展示観覧券(半券可) 定員: 30名 申込締切: 2月12日(金)必着

2月14日(日) 14:00～17:00(各公演90分程度)

新観潮楼歌会

モリキネ落語「らっ好兼太郎落語道中膝栗毛」

出演: 三遊亭らっ好、
三遊亭兼太郎
会場: 講座室
料金: 2,000円
定員: 各回30名
申込締切: 2月6日(火)必着



早春のひとときを落語でお楽しみください。

3月13日(土) 14:00～15:30

新観潮楼歌会
特別講演会

「近代詩歌の父鷗外」

講師: 高橋睦郎氏
会場: 文京シビックホール 小ホール
料金: 1,500円 定員: 166名
申込締切: 2月20日(土)必着

※往復はがきのみでの受付です。
Eメールでの申込はできませんので
ご注意ください。



Photo: Jorgen Axelvall

詩人、歌人、俳人、評論、舞台演出など幅広い創作活動を行う高橋睦郎氏が、鷗外の詩歌について語る貴重な講演会です。

◆◆上記イベントの申込方法◆◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

- ①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。
- ②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@morigai-kinenkan.jpまでご応募ください。 ※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめ確認のうえ送信ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

〈館内にて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております〉

- 体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。
- 咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指の消毒にご協力ください。

新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催や内容の変更をさせていただく場合がございます。ご来館の際は、事前にHPをご覧ください。お電話でもお問い合わせください。

編集後記

会期を変更しての開催となった、特別展「森家の歳時記——鷗外と子どもたちが綴った時々の暮らし」が11月29日に閉幕いたしました。新型コロナウイルス感染症対策に伴い様々なご不便をおかけしている中、たくさんの方にお越しいただき、誠にありがとうございました。

特別展開催中の9月1日から10月31日までの期間、当館は文京区主催「スマホスタンプラリー」に、スタンプポイントとして参加しました。このキャンペーンは、石川啄木や吉井勇、鷗外や漱石ら明治の文学者たちが登場するアニメ『啄木鳥探偵處』とのコラボレーション企画で、期間中は同作に登場する文学者のキャラクターが観潮楼の庭に集合している場面を描いた、オリジナルイラストのクリアファイルを販売しました。

大正時代が舞台の大ヒットアニメ映画『鬼滅の刃』が社会現象となつています。アニメやゲームをきっかけに、近代日本や文学に多くの方の興味を広げれば嬉しく思います。

交通案内

●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR線・京成線「日暮里」駅 南口 徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
 - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <https://morigai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30)

休館日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等

印刷物版番号 D0120030



ogai
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum